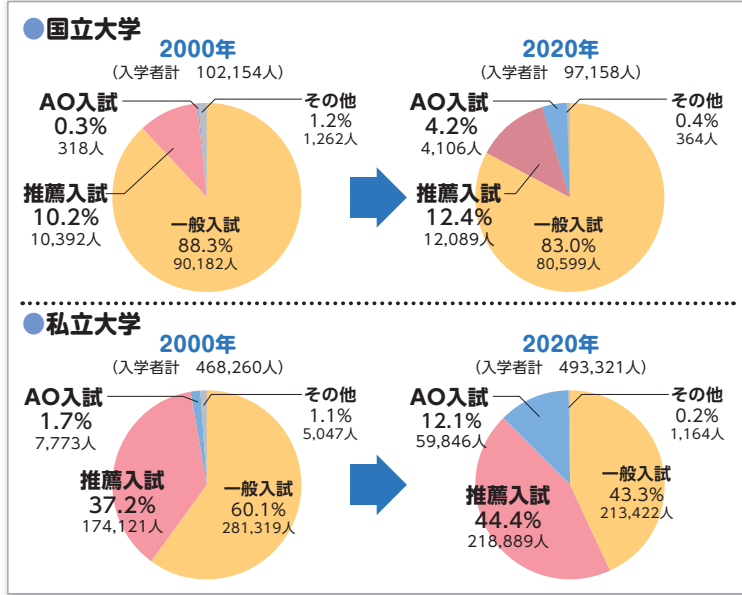


## 大学入試では、推薦入試の入学者が年々増える傾向に!



(文部科学省大学入試室調べのデータを基に作成)

コレだけは知っておきたい!  
教育NEWS

イマどき

## 目指す学力は?

# 小・中学生のうちから知識をベースに探究する学びが大切

2020年度から、大学入試改革、新学習指導要領の実施などにより教育は変化しています。昨年から小学校、今年からは中学校で、通知表の評価の観点も変わりました。今年4月にはGIGAスクール構想がスタート。全国の公立小中の子どもたちが、タブレットやPCを手にしました。目まぐるしく教育が変わる今、どんな学力をわが子に身につけさせればよいのでしょうか。石川一郎さんに聞きました。

### 加速度的に変化する時代 必要なのは未知を探究する力

以前私はこの情報紙で、これから求められる学力は「未知の問題に挑む思考力・判断力・表現力」とお伝えしました。現に世の中は、私たちの想像をはるかに超えるスピードで変化しています。

一例を挙げると、医療や生命科学にかかわる遺伝子情報の解析は、2000年には100億円ものコストがかかっていましたが、2030年には限りなくゼロに近づくといわれています。あと9年で、誰もが、地球上のあらゆる生命の遺伝子情報を手にすることができるようになるのです。

私たちは今、量子コンピュータやAIなどのテクノロジーの進化によって、1年後ですら予測が難しい未知の時代を生きています。極端なことを言えば、この先、昨日の常識が今日は通用しないということも起こり得ます。ではいつたい、わが子にどんな力をつけなければならないのか、どこを目指せばいいのか、途方に暮れてしまいませんか。

そこで、ひとつのヒントになるのが大学入試です。2020年度からの大学入試改革では、センター試験廃止・大学入学共通テストに一般入試→一般選抜、AO入試→総合型選抜、推薦入試→学校推薦型選抜に推薦入試の2つの変化が挙げられます。この中の「総合型選抜」に焦点を当ててみましょう。

「総合型選抜」は、かつての一芸入試と間違え

**総合型選抜**  
調査書などの書類審査を通過すると、面接や小論文、学力テスト、プレゼンテーションなどの2次試験がある。選抜方法は大学によってさまざま。大学入学共通テストのスコアが必要な場合も。高校からの推薦は不要。高3の9月から出願がスタート。

**学校推薦型選抜**  
公募制と指定校制があり、公募制は出願条件を満たしていれば誰でも出願できる。指定校制は、大学が指定した高校の生徒にのみ出願資格がある。いずれも、高校からの推薦が必要。学業の成績、部活動の実績、学校外での活動などが評価される。

「総合型選抜」を目指しながら、「一般選抜」に対応できる力を身につけたい!  
「学校推薦型選抜」は最後の砦と考えて!

られやすいのですが、まったく違います。たとえば、慶應義塾大学SFCのアドミッションズ・オフィスは、2021年度の「AO入試」について説明しています。

【慶應大・SFCの例】総合政策学部と環境情報学部のAO入試では、大学入学以前に人生を賭けて挑むに値する目標を発見し、それに向けて努力を積み重ね、すでに実績がある人を求めています。いわゆる一芸入試ではありません。大学の部活動で活躍してもらったためのスポーツ推薦でもありません。アイディアコンテストでもありません。自分自身の魅力が伝わるよう、自らの言葉、画像、動画等で自己アピールしてください。また、AO入試のための特別な対策は求めています。みなさんの大切な個性を表現してください。

お話しくださったのは……

**石川一郎さん**  
聖ドミコ学園  
カリキュラムマネージャー

1962年東京都生まれ。早稲田大学教育学部社会学科地理歴史専修卒業。30年にわたり中高で教鞭をとり、かえつ有明中・高等学校校長、香里ヌヴェール学院学院長を務めたあと現職。著書に『2020年からの新しい学力』『学校の大問題 これからの「教育リスク」を考える』(ともにSB選書)など。

また、2020年度の東京工業大学の総合型選抜の募集要項には、入学希望者に「誰も見たことのない未来をつくりだせ」という見出しで「①高い志を持ってほしい」「②多角的な視点を持ってほしい」というメッセージがあります。そして、求める学生像として、次のように記しています。

【東工大・工学院の例】機械系、システム制御系、電気電子系、情報通信系、経営工学系の学問分野に強い興味を抱き、人類と社会の持続的発展に貢献しようという高い志と理系科目を中心に十分な基礎学力を有する者。とりわけ総合型選抜では、柔軟な発想力と、その発想を他者と共有するための説明力および他者の発想を理解できる能力に秀でた素質が認められる者を強く求めます。

つまり、十分な「知識・技能」はもちろん、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を兼ね備え、自分だけでなく他人のため、世のため、ミッションを持って自ら探究し続けていく。このような「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」が増えているのです。

### 推薦の比重が高まっているのは「探究」型の人材を求めているから

大学入試で「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」が増えているのは、これからは未知の課題を発見・解決する能力のある人材が必要だからです。そのため、高校の学びも来年度からそうした人材育成に効果的な「探究」型に変わります。

高校では、小中の「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」へと変わります。学習指導要領では次のように目標が示されています。

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。

「問題解決的な学習が発展的に繰り返され、物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の知的営み」を「探究」と呼ぶのです。そのプロセスは、次の①～④を繰り返していきます。

- ① 課題の設定……体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ② 情報の収集……必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③ 整理・分析……収集した情報を整理したり分析したりして思考する
- ④ まとめ・表現……気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

### 「探究」の土台となる学力を小・中学生の間に身につけて

「探究」のプロセスに、②「情報の収集」があります。「情報」は「知識」と置き換えられます。小・中学校で学ぶ教科、特に5教科は、これまでの人類の営みの中で発見・解明された事実や、今世の中で起きている事象を読み解くための土台となる「知識・技能」を学ぶものです。文系・理系といった枠を取り払い、横断的・融合的に、さまざまな知識に幅広くふれてほしいと思います。

③の「整理・分析」は、今までの教育で十分ではなかった「思考力・判断力・表現力」につながる部分です。たとえば、子どもがあるゲームをどうしてもほしい、と言ったとします。「なぜ、そのゲームがほしいの？」という親の問いかけに、子どもが「なぜなら……だから」と、根拠となる情報を筋道立てて示しながら親を説得する。こんなやりとりが基礎的なトレーニングになります。

小・中学校のうちから「探究」型の学びを積み重ねていくことが将来の選択肢を広げる、ということ、ぜひ意識しておいていただきたいですね。



## Q&A 探究型の学力を伸ばすには？ 石川さんに聞きました

**Q. なぜ、「探究」がクローズアップされているの？**

**A.** 人工知能 (AI) は、膨大なデータ (情報) の収集や、言われたことを言われたとおりやる単純作業は得意です。つまり、正解が決まっているものに対しては、正しく速くどり着けるわけです。しかし、今、私たち人類が直面しているのは、新型コロナのような感染症、温暖化による気候変動、世界的な食糧難など、正解がわからない地球規模の課題で、AIでも正解は出せません。子どもたちは、将来どのような職業に就こうとも、このような予測不能な未知の状況に対応することになります。正解がわからない課題に立ち向かうために、「探究」の力をつけておく必要があるのです。



**Q. 5教科すべての力が必要なのですか？**

**A.** 小・中学生で学ぶ、国語、算数・数学、英語は、論理的思考力のトレーニングが多い科目です。国語や英語では、論理的に書かれた説明文・論説文を読み解きながら、論理的に「読む」「書く」「話す」「聞く」を学びます。算数・数学は、論理的に物事が成り立つことを、数式やグラフなどで表します。理科や社会では、さまざまな事象の因果関係を知識として学び、さらに「(理科の実験で)なぜこうなるのかな?」とか、「(社会の歴史で)どうしてこういう事件が起きたのかな?」など、「なぜ?」という問いを想起しながら学んでいきます。つまり、国語、算数・数学、英語で身につけた論理的思考力・表現力に、理科や社会の知識を肉付けし、結びつける。こんな横断的・融合的なイメージが、これから求められる学力です。だから5教科の力が大切なのです。

**Q. 親は子どもにどう接すればいい？**

**A.** 子どもが大きくなるにつれ、「なぜ?」「どうして?」のやりとりが面倒になり、子どもも親もあまり言わなくなる傾向があります。しかし、論理的な思考力・表現力を高めるためには、「What?」「Why?」「How?」の問いは欠かせません。子どもが何かをやりたいというとき、「何がしたい?」「なぜやりたいの?」「どうやってやるの?」という問いで、段取りや方法を確認してあげてください。それがトレーニングになり、「思考力・判断力・表現力」の原石になるからです。そして、「What?」「Why?」「How?」の問いに的確に答えるためには、必ず「知識」が必要になります。難しいことを知っているから偉い、というわけではありませんが、「知識」を持っていればいるだけ世界が広がります。親子で「なぜ?」のやりとりを心がけて